

医療通訳 同行？遠隔？

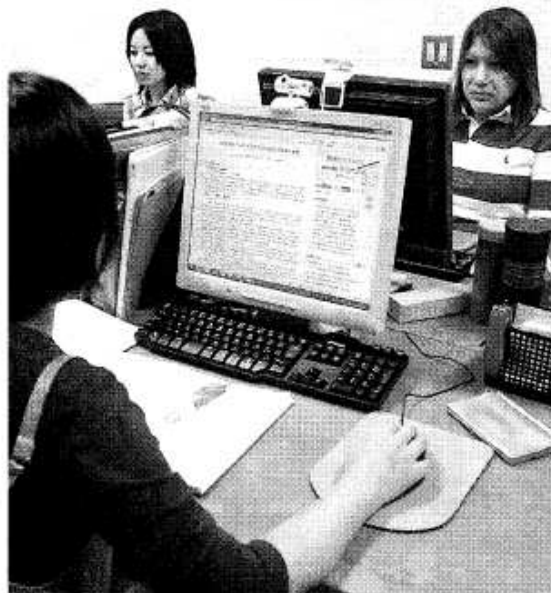
県独自の取り組み 上半期は35件

外国人の受診時に役立つと、県独自の医療通訳の取り組みが始まっている。診療室まで出向く「同行通訳」と、携帯電話などを使う「遠隔通訳」の二本柱で、それぞれの長所を生かした仕組み作りを目指す。専門用語の習得の難しさなど課題も残るが、県は今年度から、近県との連携事業にも乗り出す。

患者「安心できる」

同行

ある平日。群馬大医学部（前橋市）の一室にある「県医療通訳等コールセンター」の電話が鳴った。群馬大医学部付属病院の外科にペルー国籍



の男性が来たので、スペイン語の通訳をお願いしたいという。通訳の女性が出向き、看護師から紹介されると、男性の顔が緩んだ。

「以前受診したとき、1回2錠の薬を1錠と聞き間違えた。知人の中には、肩が痛い」と受診し、湿布しかもらわなかったのに、ペルーに帰国したら肺がんと診断されてすぐ亡くなった人もいる。

「生活の中で使わない言葉はなかなか理解できない。通訳の人を呼んでもらえる病院は安心できる」

④コールセンターでの待機時間に医療用語の訳に取り組み通訳者たち
⑤テレビ電話用の機器を持って説明する滝沢清美理事長も前橋市昭和町

県の医療通訳制度
保険制度や心構えなどの研修を4日間受け、レベルチェックに合格した人が登録されて請け負う。現在は9言語39

コールセンターは、県から委託を受けたNPO法人地域診療情報連携協議会が2009年7月から運営する。平日の午前9時〜午後5時、スペイン語・ポルトガル語・中国語の通訳者が詰める。群大病院や前橋赤十字病院、伊勢崎市民病院など、協定を結んでいる10病院からの依頼が来る。時間を調整して直接出向いたり、携帯電話などで遠隔通訳したりする。

「PPOなどになると、委託開始前に県国際課が登録できるし、医師も正しい診断が下せる」と効果を説明する。NPOなどによると、委託開始前に県国際課が登録できるし、医師も正しい診断が下せる」と効果を説明する。

突然の依頼にも対応
通信機器は病院負担
遠隔

県の制度では、同行通訳者への謝礼は2千円。待ち時間が長くて一日仕事になった場合には見合われないうえ、通訳者の多くが仕事をもっているため、診療時間に必ず合わせられるとは限らない。

他県との連携検討へ
こうした中、県は、茨城・栃木・埼玉と連携して医療通訳の仕組みづくりを検討するため、9月補正予算に233万円を盛り込んだ。

県単位でこうした取り組みが必要になる背景には、国に動きが見られないという理由もある。

しかし、インターネット回線がない、携帯の電波が通じない病院が多い▽特に携帯電話の場合、聞き取りにくい、「このことを指し示しても伝えられない▽同行通訳の方が患者が安心する」など、問題点も多い。

「現状に問題がある」「通訳者のレベルを一定化した方がよい」と声を聞くが、今は優先的に取り組む課題には設定していない」（医療局総務課担当者）とする。

県国際課の担当者は「言葉が原因で起きる不都合をできるだけ少なくする仕組みを、誰かが整える必要がある。より適切なシステムを作りたい」と話している。

Honda Solar
環境のことを考える
ホンダソーラーの
次世代型太陽電池で

株式会社ア
0120-122-773
ホームページ アテイク

中古カメラ売ってます。
ニシヤから柏木・クラシックまで
専門店ならではの品揃え!!
店内大量展示中です

ワカイカメラ
027-232-7575
http://www.wakaicamera.com/